

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

ロータリーで良いことをしよう

高田ロータリー
今年のスローガン

変化を楽しもう



ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度

国際ロータリー会長 **ホルガー・クナーク**
2560地区ガバナー **佐藤 真**
高田ロータリー会長 **大島 誠**
幹事 **伴 長門**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025)526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員会：
齋藤 尚明・飯塚 宏佳・佐藤 信・川崎 直哉・齋藤 俊幸

第30回例会 3月19日(金)

No.30

会長挨拶 ●大島 誠



皆さん こんにちは。お元気ですか？

あの大雪が嘘のように消え、明日はもう春分の日です。上越市の日の出は5時50分頃、日没は18時少し前のようです。日が長くなりました。

さて、先週の分散例会はいかがだったでしょうか。予想以上に好評の様で、コロナの状況での例会・委員会の在り方のひとつになるかもしれません。また、コロナの有無に関わらず、たまにはこのような形式での例会も良いかもしれません。次年度もご検討ください。

今日はこの後 中田会長エレクトからPETSの報告がありますので、私の挨拶は以上で終わります。

出席報告

100%

委員会報告

出席ニコニコBOX委員会

川崎直哉君：長い間おつきあいいただきありがとうございました。今後も街で会ったらよろしく願いいたします。

福田 聖君：この3月1日、当社社長職を長男に譲り、会長職に就きました。今後共ご支援をお願い致します。

SAA委員会：食事のピタリ賞は2月までで7回でした。ニコニコします。出欠の変更は当日の9時半までです。ご協力ください。

米山奨学委員会 寄付のお願い

セレモニー



米山記念奨学会感謝状贈呈
齋藤尚明君

会員インフォメーション

福田 聖君：本日(18:53~19:00)「きぼうISS」が日本上空を通過します。

幹事報告

配布物：週報No.28.29、
報告：4/9 観桜会の開催のお知らせ

2021-22年度PETS 参加報告

中田会長エレクト

先週3月13日(土)PETS会長エレクト研修セミナーが分区毎に異なった会場でリモートにて開催されました。今回のPETSで特筆すべき点は、第2560地区を含む6つの地区で開催されている会場をリモートで結び、次年度RI会長のシェカール・メータ氏がオンラインで、次年度のテーマ「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」について講話された点でした。

第2560地区高尾ガバナーエレクトより地区運営方針「ロータリーを学び、ロータリーを広げよう」も発表されました。

いよいよ、次年度に向けての準備が始まります。会員の皆様に様々な役職などお願いしますが、「超我の奉仕」の精神でご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

卓話

日本と上越の森林事情

くびき野森林組合 代表理事組合長 横田 力様



●森林組合とは

日本の国土は約7割が森林で、その約7割が個人所有する私有林です。森林組合は、森林組合法によって設立され、森林所有者が組合員となって組織されている協同組合です。

森林組合は組合員や地域の森林づくりや森林経営の要望に応えるとともに、森林の巡視や調査、行政の支援制度に関する情報提供なども行っています。

日本の森林組合には、おおそ市町村に相当する範囲の民有林を対象にした森林組合と、狭い地区の共有地を共同経営する生産森林組合の2種があります。2015年（平成27年）3月末の狭義の森林組合は631、加入者は153万人で森林所有面積の67%、また生産森林組合は3,053ありました。

森林組合の上部団体として都道府県森林組合連合会、さらにその上に全国森林組合連合会が設置されています。

●上越地域の森林組合

①くびき野森林組合 ②ゆきぐに森林組合（浦川原区、安塚区、大島区、松代、松之山）

③頸南森林組合（妙高市、板倉区） ④ぬながわ森林組合（糸魚川市）

●森林組合の仕事

①森林整備・・・木を植えて伐採、販売（頸南は国有林整備に力） ②公共事業工事・・・河川工事、道路工事などの伐採 ③企業や個人からの仕事・・・伐採・刈り払い（草刈り）

④木材取引市場の運営（ぬながわ）

⑤製材工場の運営（ぬながわ）⑥林産品の製造と販売・・・ゆきぐに森林組合のきのこ工場は全国有数の規模

⑦破碎事業・・・くびき野森林組合

●林業の問題点と課題

森林組合の本来の業務は森林整備ですが、木材価格の低迷で、組合員の山林を伐採しても再造林する資金が出ない状況にあります。国や県、市から様々な助成金が出されていますが、森林所有者が投資に見合う利益を得られないのが現状です。

間伐（杉を60年育てて伐採するためには2~3回程の間伐が必要です）に対する国の補助金は、1団地30ha以上に集約化し1年間に5ha以上の整備をしないと対象になりません。効率的作業には団地化が必要ですが、一方で個人が自分の山を整備するときに対象から外れてしまうことが問題です。篤林家=地域の林業指導者がいなくなり、林業界の人材不足が懸念されます。

大規模集約化による効率的な林業と合わせて、山林所有者が自ら木を育て伐採し販売する「自伐林業」「休日林業」と呼ばれる小規模林業がなりたつ仕組みを整えることが大事です。

また社会問題化している放置林を意欲ある人に移転することも喫緊の課題です。これには大胆な法改正が求められます。

●くびき野森林組合の課題

組合員の減少・・・不在地主の増加、林業への関心の低下、相続問題等で年々組合員が減少

※前年度より賦課金徴収を停止 ※指導事業の強化・・・チェーンソー等の整備や伐採研修の「出前講座」

※組合員の森林整備を加速・・・現状の年間約40haから100haの整備へ

本来業務と付帯事業のバランス

森林整備での利益確保が難しいため、請負事業やリサイクル事業で収益を上げていますが、森林整備の比重を高める努力を始めています。

人材確保・・・危険を伴う特殊な仕事のイメージがあり、人材確保が難しいのですが、職員の待遇改善、研修の充実、高性能機械の導入を計り選ばれる職場にする努力を始めています。

地域貢献・・・これまでに組合員対象の様々な研修会を実施してきていますが、今年度から地域貢献として町内会などへの「出前講座」を実施して林業や森林への関心を得る努力を始めます。

●バイオマス発電への期待

伐採された木は根元から枝までA材、枝がある部分のB材、細い部分のC材に分類されます。それぞれ建築や家具用材、合板用材、燃料などに使われます。C材がバイオマス発電の燃料として使われることで木材価格の底支となっています。ただ発電所までの輸送費がネックとなっています。

上越地域に小規模バイオマス発電所が立地すればエネルギーの地産地消になり、地域の森林整備が進みます。

※東北電力・中部電力による小型バイオマス発電所が期待されます。